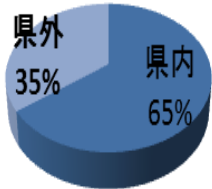


小児・AYA世代におけるがん対策推進事業について

がん医療の現状

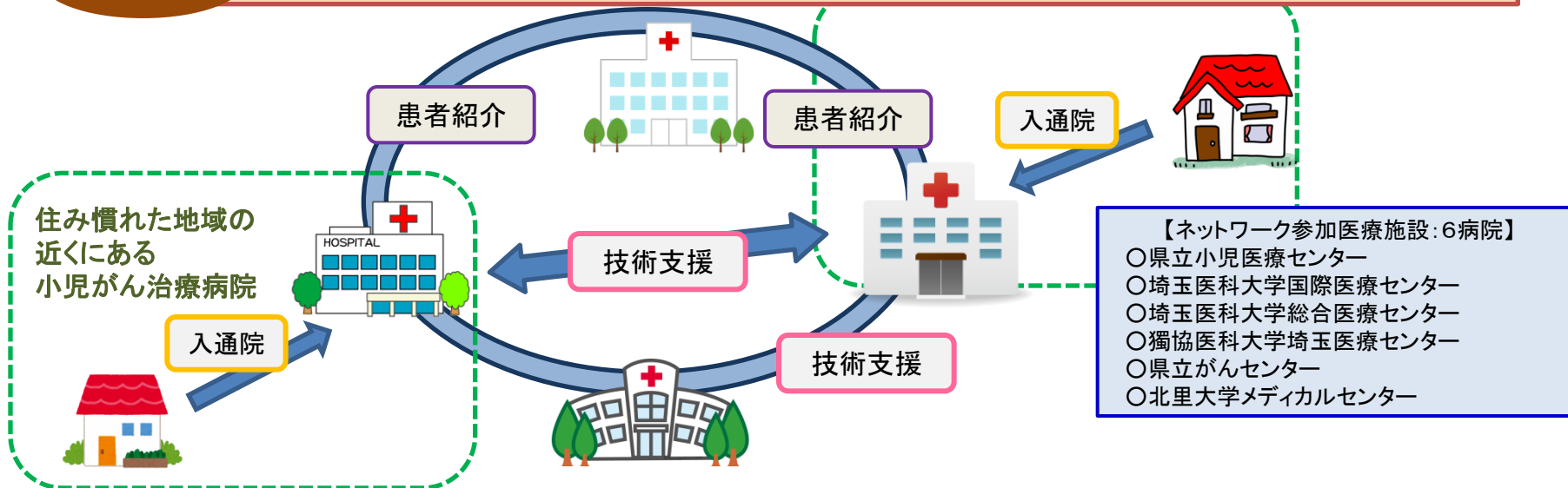


- 本県の小児・AYA世代がん罹患者数は年間約900人。
- 小児がんの治療に対応できる医療機関は限られている。
- 小児がん患者約35%が県外の医療機関を受診している。
- 医療の進歩により、小児がんの治癒率が70～80%に向上
- 成長期に強力ながん治療を受けたことによる生殖機能の問題や長期入院による教育や就労の問題の顕在化

①小児がん医療連携体制整備事業

課題①

遠方の医療機関に入院及び通院することによる家族の負担増（入院・通院に係る時間・面会・付添い等）

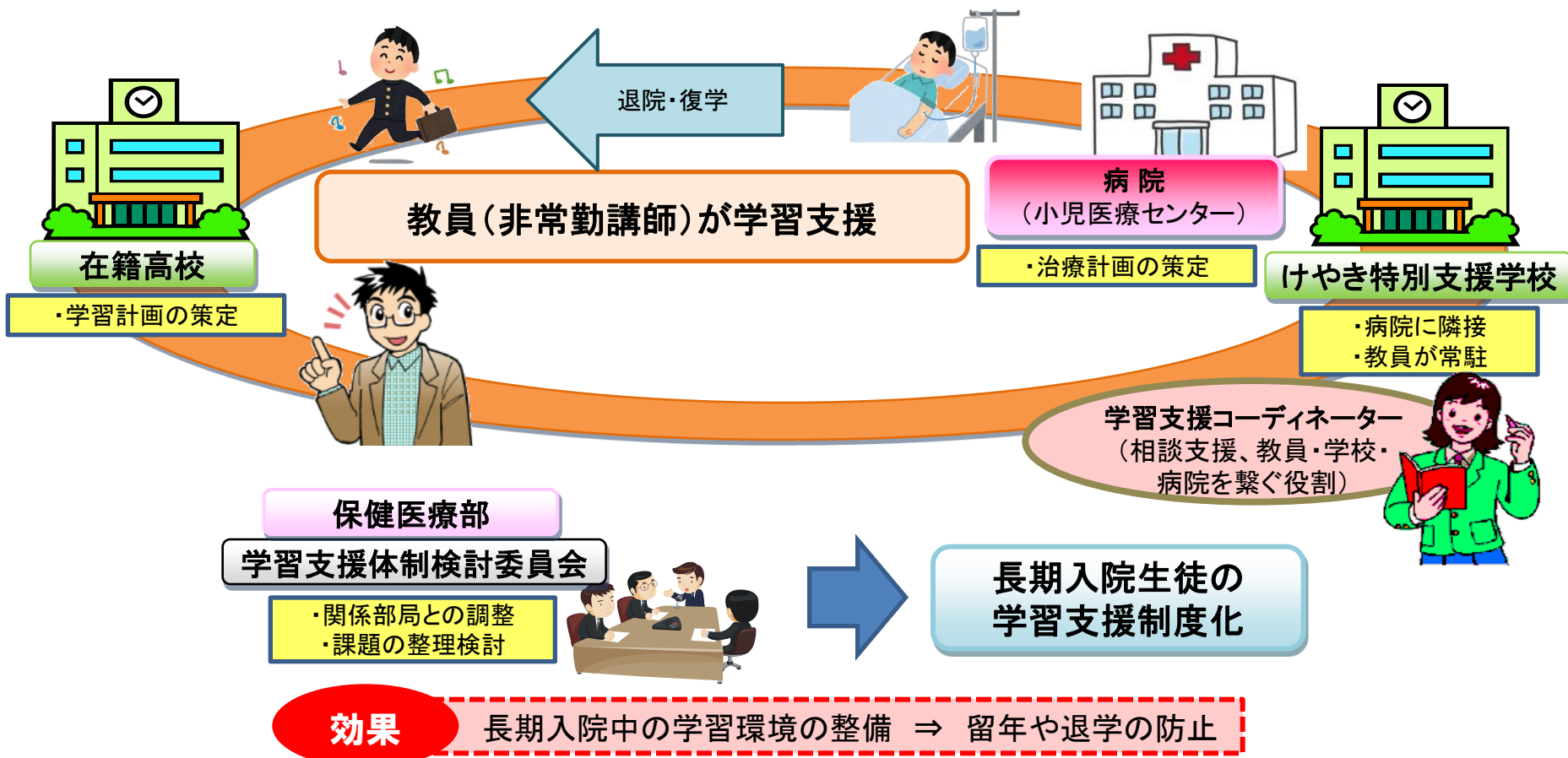


効果

住み慣れた地域で治療を継続できるようになり、家族の負担を減らす

②長期入院を要する高校生への学習環境整備事業

課題 就学や就職といったキャリア形成に係る支援の不足



③小児・AYA世代の妊孕性温存支援事業

課題

結婚や妊娠といったライフステージに係る支援の不足

